



明日からの修学旅行を前に3年生のみなさんへ～保護者の方への感謝の気持ちを行動に～

修学旅行前になると必ず生徒たちに話をしてきた教え子のことを紹介します。

今から20年ほど前に出会ったある中学3年生Aさんという男子生徒の話です。Aさんの家庭は母1人子1人で、母親は我が子のために毎日一生懸命に働いていました。しかし、生活はかなり苦しい状況でした。2年生の3学期、修学旅行の申し込み用紙を学校が配付しました。母親は何とか修学旅行に行かしてやりたいと考えていましたが、Aさんは自ら「お母さん、僕、修学旅行には行かなくていいよ。そんなに行きたいとは思わないから」と答えたそうです。結局、提出された修学旅行の申込用紙には「欠席」に○がされていました。その申込用紙を受けとった担任の先生はAさんに話を聞いてみました。それでわかったのは、Aさんは「本当は修学旅行に行きたい」、「母親のことが心配で行きたくないと答えた」ということでした。私たちは相談をして、Aさんが何とか修学旅行に行けないか考えました。そして考えたのが修学旅行費の分割払いという方法でした。担任の先生は、Aさんの本当の気持ちを母親に伝え、分割払いという方法も提案しました。母親はすぐに了解をしてくれました。Aさんは学年の仲間とともに修学旅行に行けることになったのです。



4月になり、いよいよ修学旅行が目前に迫ってきました。私たちにはひとつだけ不安がありました。Aさんが修学旅行当日のお小遣い（8000円）を持ってこられるかどうかという不安でした。私たちは相談しました。「修学旅行最中に1人だけお小遣いがないというのは、あまりにも可哀想である。お小遣いを私たちが準備し、後から少しずつでも返してもらうことにしよう」、そう決めたのです。修学旅行当日、担任の先生がAさんに「Aさん、お小遣いはどうした？」と声をかけました。するとAさんが、「うん、お母さんが『これ持って行け』って言って3000円もくれたんだ。いいでしょう。これでお母さんにお土産を買って帰るんだ」と答えたのです。本当に嬉しそうな表情で自慢げに話をしているAさんの姿を見て、勝手に心配して、お小遣いの準備をしていた私たちはとても恥ずかしい気持ちになりました。修学旅行から帰ってからその話を母親にすると、「先生、息子を修学旅行へ行かせて良かったと思います。本当にありがとうございました」と言ってくださいました。Aさんは修学旅行の代金以上のものを、母親にプレゼントできたのではないかと思います。

Aさんのお母さんが喜んだのは、Aさんがお土産を買ってきてくれたからではありません。修学旅行を通して息子の温かさを感じたからであり、息子の感謝の気持ちが伝わったからだと思います。今年の3年生のみなさんの修学旅行に必要な金額は、お小遣いを合わせると7万円近くになります。7万円というのはそう簡単に稼げる金額ではありません。それでも保護者の方はみなさんのためにそれを準備してくださいました。みなさんもこの修学旅行に際して、保護者の方へ感謝の気持ちをしっかりと伝えてもらいたいと願っています。そして、明日からの修学旅行をきまりを守った素晴らしい行事にしたいと思います。

ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



学校経営方針について②

3 めざす学校像

「湯梨浜中学校で学び、生活できたことを誇りに思える学校」

- (1)生徒が日々成長でき、明日も学校に行きたいと思える学校
- (2)教職員が充実感をもって働ける学校
- (3)保護者から信頼され、地域とともにある学校

「生徒も教職員も、そして保護者のみなさんも、誰もがこの学校で良かったと思える学校を目指していきたいと思います。そのためには、生徒はもちろん、保護者の皆様のご協力も不可欠となってまいります。我が子のためにも、湯梨浜中学校での学校生活が充実したものとなるよう、ご理解・ご協力をお願いいたします。」

4 めざす生徒像

(1)【立志】

高い志を立て、その実現のためにともに学び合い、未来を創り出そうとする生徒

(2)【親愛】

自らよりよい人間関係を築き、思いやりを持ち、ともに伸びようとする生徒

(3)【創造】

夢や目標に向かって自ら課題を発見し、粘り強く取り組み、課題を追求しようとする生徒

(4)【郷土愛】

ふるさとを愛し、地域社会の発展に貢献しようとする生徒

「A Iの導入により、スーパーのレジが無人化され始め、今後も様々な仕事がA Iに取って代わられる時代がくると言われています。そんなA Iにも『人の気持ちを考える【親愛】』『新たなものを企画したり創造したりする【立志・創造】』等の苦手なことがあります。そんなA Iが苦手とする力をつけることが、今後の社会で生きていくためには必要だと考えています。これらの社会で生きぬいていける力をもった生徒が本校のめざす生徒像です。また、現在自分が生活している場所への愛着がもてる人はどこに移り住んでも幸せに生きていける人だと考えています。そこで、今住んでいる湯梨浜町をいつまでも愛し、大切にできる生徒たちを育てることが、やがては生徒たちの幸せにつながるものと信じて教育を行っていきたいと考えています。」

次号では本年度の重点目標をご紹介します。

湯梨浜中学校PTAより

先日、郡中P連の定期総会において本校PTA顧問の千熊一弘さんが会長に就任されました。ところが、郡中P連の規約によると、会長に就任できるのは各単位PTA（湯梨浜中学校）の会長・副会長のみとなっていました。そこで、本校PTA規約においては副会長は2名となっていますが、今年度のみ、対外的には千熊顧問を副会長兼務とさせていただきたいと思います。なお、今後も同様のことが考えられますので、本校PTA規約を今年度末の決算総会で改正したいと考えています。どうか、会員の皆様にはご理解をお願いいたします。なお、この件に関して、ご意見がある方がおられましたら、今週中に中学校 尾川教頭先生までご連絡ください。

PTA会長 松田安功

卒業アルバムの部活動写真について

2、3年時にクラブ活動参加等の理由で部活動に加入しなかった生徒の中で、以前加入していた部活動で卒業アルバムの部活動写真に入りたいという希望のある生徒は部活動写真に入ることができることとします。希望のある生徒は部活動写真を撮る予定が出されたら、担任、顧問に申し出るようにしてください。